



1 / 独創的な衣装で観衆を魅了した文化ファッション大学院大学のステージ 2 / 学生デザインファッションショーで製作された10点の作品 3 / 機能性とデザイン性を追求した、県製作の農業青年ユニホーム 4 / 自らデザイン・製作した衣装を披露する北いわて仕立て屋女子会のメンバー

作るから魅せるへ 「アパレルの聖地」発信

久

慈市や二戸市など岩手県北地域は縫製業者の一大集積地。この「アパレルの聖地」

の知名度向上、事業者の技術力向上を目的に、北いわて学生デザインファッションショー（北いわてアパレル産業振興会主催）が開催されています。

2月26日、二戸市民文化会館で第4回のショーが行われ、プロのモデルが地元縫製業者が製作した衣装を身にまといランウエーを練り歩き、華やかなステージで約900人の観衆を魅了しました。

学生デザインの部門では、県内の高等学校や専修学校から応募のあった約300点の作品から優秀賞10点を選出し、デザイン画をもとに、実際に衣装を製作。市内からは田子内萌さん（久慈東高*2年）と小室奏絵さん（久慈高*1年）、2人の作品が優秀賞に選ばれ、製作された衣装をモデルが着用してステージでお披露目されました。

*学年は受賞当時



優秀賞 くろネコさん

小室 奏絵さん
(久慈高1*年)



子どもが着て楽しく大人も見て楽しい服をテーマに考えました。ポイントの耳やしっぽ、背中の足跡模様など、実際に服にする際にどう表現するのか興味がありました。思っていた通りの出来栄えにびっくり！



優秀賞 琥珀色の希望を纏って

田子内 萌さん
(久慈東高2*年)



ジャケットは久慈の特産品である琥珀色に、スカートは三陸鉄道をイメージして白地に赤と青のラインを入れました。ポイントは肩に入れたフリル。衣装はイメージ通りの仕上がりで、とてもうれしいです。